

# 1年 書道Ⅰ 第2回課題

芸術科 書道 (5/11~5/31)

作成者 嘉瀬和雄

古来、現代のように鮮明で美しい手本を簡単には手に入れることができなかつた頃、良好な手本の文字の籠字(第3日分の課題で学習した)をとり、中を塗りつぶして複製の手本を作る方法が、かなり古くから行われていました。また一方で、ただ見て書いただけでは見落としがちな形の細部をしっかりと観察できるという点で、前記の方法は書の学習方法として有効であるとされ行われてきました。

書道用具が平等に揃っていない現状を踏まえ、ここではその方法によって古典を習ってみようと思います。

教科書P,18~27までに掲載された4つの古典の解説を読み、各古典作品の左頁の図版をA4版(なければ何でもよい)の用紙を縦に使い、下図の要領で教科書の各古典と同じ大きさの枠を書き、籠字(図版と同じ大きさ)をとりながら線を黒く塗りつぶしていき、実際に筆で書いたような写本を完成させ、その感想(印象や気づいたことなど)を籠字をとった文字の左側へ書きなさい。

\*読み取りにくい文字は書かないで枠を空けておいてよい。キズであろうと思われる部分はもとの形を想像して書いてみる。

\*課題は提出してもらいますので、きちんと保管しておいてください。

第4回分 孔子廟堂碑 教科書P19図版(縦10文字、横5行の1行目「聖」字から2行目「哉」字まで)

第5回分 九成宮醴泉銘 教科書P21図版(縦8文字、横4行の1行目「四」字から2行目「海」字まで)

第6回分 雁塔聖教序 教科書P23図版(縦7文字、横4行の1行目「足」字から2行目「朗」字まで)

第7回分 顔氏家廟碑 教科書P27図版(縦5文字、横3行の1行目「騰」字から2行目「有」字まで)

\*課題はどれも写し取らずに書きとること。

|         |             |   |   |
|---------|-------------|---|---|
| ○ ○ ○ ○ | △           | 基 |   |
| ○ ○ ○ ○ | 感           | 超 |   |
| ○ ○ ○ ○ | 想           | 七 | 聖 |
| ○ ○ ○ ○ | ▽           | 百 | 期 |
| ○ ○ ○ ○ | ここに感想を書いていく | 赫 | 大 |
| ○ ○ ○ ○ |             | 矣 | 唐 |
| ○ ○ ○ ○ |             | 王 | 運 |
| ○ ○ ○ ○ |             | 猷 | 膺 |
| ○ ○ ○ ○ |             | 蒸 | 九 |
| ○ ○ ○ ○ |             | 哉 | 五 |

【孔子廟堂碑の例】

氏

名